

# 2020年度森林公園だより No.1 2020年5月27日

朝晩及び前日との気温差が大きい日が続いています。重ね着を工夫することで、調整をお願いします。また、水分補給を十分に行ってください。

園内では多くの花が咲いています。キンポウゲはピークを過ぎました。

草本類ではニガナ、シロバナニガナ、ハナニガナが園内いたるところで咲いています。

樹木では、キリ、ヤマボウシがピークを迎えています。また、ガマズミも咲き始めました。

地面に落ちた花も良い香りがします。先日地面に落ちているキリの花のにおいをかいでみたら、さわやかな香りがしました。

森のレストラン前の鳥の巣箱にはシジュウカラが営巣していて、ヒナにエサをせっせと運んでいるところを観察できます。静かにご覧ください。なお、シジュウカラは孵化後20日前後で巣立ちます。

ニガナ



シロバナニガナ



ハナニガナ



キリ



ヤマボウシ



ホオノキ



シジュウカラ(ヒナのためのエサを持ってきた) 周囲への警戒を怠りません



## 一口メモ

5月27日現在、森林公園インフォメーションセンター内の森のレストラン前に設置してある巣箱にはシジュウカラが営巣しています。すでにヒナは誕生しているようで、毎日せっせと親鳥がエサを運んでいるのを間近に観察することができます。

シジュウカラは巣箱内にコケや動物の毛などを敷き詰めた巣を作り、平均で8～9個の卵を産みます。12-13日ほど卵を温め、孵化後20日前後で巣立ちということです。なお巣箱がなければ木のうろなどを利用します。

あるTV番組で紹介されていましたが、シジュウカラは野鳥の中でも会話をしている鳥として有名で、いろいろな鳴き方をして人間のように単語を組み合わせて文章にしているようです。確かに職員がシジュウカラの群れのそばを通ると、「ピーツピ、ピーツピ」と鳴いた直後に「ジジジジ」を続けることが多いです。これをその番組の内容そのままに当てはめると「集まれ」「警戒しろ」という解釈ができるということです。このようなことがわかってくると一味も二味も違う散策を楽しめます。

※参考文献：山溪カラー名鑑日本の野鳥